

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170600136		
法人名	有限会社アルファ企画		
事業所名	グループホームみどりの丘		
所在地	佐賀県武雄市武雄町大字昭和229番地		
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果市町村受理日	令和4年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和2年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

武雄市の中心街にありながら自然を感じられる御船山と田んぼに囲まれる毎日の生活を送ることができる。17年前の設立当初はグループホーム1ユニット、のちに宅老所を経て29年4月よりグループホーム2ユニットとなりましたが、一貫して理念にも掲げているように、ゆったり、楽しく、安全に生活を送って頂くように職員一丸となって取り組んでいる。特に家庭的な雰囲気を大切に、ご家族にもいつでもお越しいただけるようにしており、家族会なども開催している(現在はコロナの為に一時ストップ)今後も今後もご家族の意向に配慮するケアに努め、入居者様に1つでも多くの笑顔が見られたらと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年開設から現在までホームの理念のもと全職員が利用者に対して尊厳ある支援に努めている。ホーム内は入居者の手作りの作品や写真等が飾られ、明るい雰囲気であり、窓からは田畑や公園等が見えるため季節を感じられ、ベランダのテラスにはゆっくりとくつろげるスペースがあり、食事することもできる。日々の生活の中でも入居者の体調や生活スタイル等、一人ひとり合わせた支援が行われている。身体機能維持に努められており、音楽に合わせてのストレッチ体操や歌を歌ったり、DVDを見ながらのリズム運動、嚥下体操等、自然と楽しく意欲的に体を動かすことができるよう工夫しながら取り組まれている。家族や関係者との関わりにおいても、丁寧に細かな連絡のやり取りや対応が行われており、安心して生活できる環境である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	Aオレンジ棟	Bミント棟		Aオレンジ棟	Bミント棟
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内や相談室、休憩室などの目の届きやすい所に掲示している。又、全体会議時にも読み上げ確認している。	理念は開設当時から変わらず、目に付きやすい玄関に提示している。会議の中で読み上げたり、職員間でも共有できているか確認しながら支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1回の運営推進会議を開催。民生委員さん、家族等の参加を頂き、意見交換の場を設けている。	ホーム主催の会議で地域住民と意見交換をおこなったり、情報共有ができています。地域の行事やイベント等に参加し、交流を図ったり、ボランティアを招き踊りや音楽の披露をしてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんが独居老人のことで相談に求められたり、ホーム内行事の時に話される方があったりする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内利用者様の現状を常に公開し、自然災害時の協力要請を行ったり、外部よりの意見など、全体会議に報告し、スタッフ一同共有し、検討するなどしている。	活発な意見が出やすい雰囲気であり、地域の方や家族と一緒に取り組める内容を計画している。ホームでの活動報告や地域の情報等、いろいろな意見交換が行われ反映できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターや健康課と情報交換に努めている。運営推進会議等でも意見交換の場を設けている。	行政から新たな情報を収集したり、ホームでの取り組み等を報告しており、連携を図ることが出来ている。日頃より、連絡は密に取り合い関係性を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束検討委員会を設けており、毎月現状を見直し、確認しあっている。やむを得ない場合は期間を定め、家族の了解のもとで、実施をする場合もある。	身体拘束適正化委員会が設置されており、毎月、身体拘束による理解や日常支援の見直し等の話し合いが行われている。帰宅願望が強い方に対しては、安全面を考慮し、現在、玄関施錠を行い対応している。	玄関の施錠について、解除が出来る環境づくりに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	1か月に1回の全体会議や社内研修で確認しあったりする事で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活の中で利用者様が自立できるよう、残存機能を生かし支援していくようにケアをしている。 青年後見制度についても実施例がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まず契約を交わす時点で十分な説明をし、質問を受けるなどして納得いただく。改定の場合は文書などで理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や面談の機会を多くして、家族とのコミュニケーションを図るように努め、意見などを聞くようにしている。	家族とは連絡を密に取るようにしており、面会に来られた時には声かけし、困った事や意見がないか確認している。意見箱の設置も行っており、要望に対して反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議や日々のミーティングにおいて、できる限り意見を聞き、反映させるようにしている。	常に職員の声には耳を傾けている。月に1回の全体会議は、意見が出しやすい雰囲気があり、職員からの要望や意見、支援の方法等を聞き取り、解決できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握に努めており、昇給、賞与に反映。又、食事会などの場を設けている。職員休憩室を設けた。又、A棟テーブル、ソファを新たに購入し、雰囲気をリニューアルした。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や個人差にあわせ、 外部研修を受けてもらったり、 社内勉強会を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	できるだけ他施設訪問を心掛けている。又、来訪された場合でも相手の時間が許す限り情報交換などに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始にあたっては、御本人と話しを重ね、回りの家族や担当ケアマネより現況や要望などの傾聴に努めている。安心して頂ける介護につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同居の家族のみならず、回りの関係家族ともお話しする機会をできるだけ作り、良好な関係を築けるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いをして何を必要とされているかを聞き取り、サービス計画書案を作成して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様本位のサービスを提供するものの、共に共通話題をみつける努力をして行く。日々の変化を見落とさず、声掛けに努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を細かくし、状況を把握していただく。その上で家族の気持ちを読み取り、見守りし、安心して頂くよう支援する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも対応してきた。現在コロナ関係で場所と時間を制限しているが、途切れないよう努力している。(こまめな連絡や便りなど)	地域の行事やイベントに参加したり、友人や知人がホームを訪れることで交流が図れている。行きつけの床屋や自宅までのドライブ等、馴染みの場所まで、希望に応じて個別対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ居室から出てホールにて過ごして頂き、お茶の時間や、会話の時間を持って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたり、入院されたりがあっても、何かと電話で相談があったりするが、対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書作成時のアセスメント他、日常生活の中での会話や本人様の言葉、行動などから利用者の意向、希望の把握に努めている。意思疎通困難な方はご家族に確認したり表情や行動から推察している。	生活歴、性格等を把握し、日々の関わりの中で声かけしながら意向の把握に努めている。言葉で伝えることが困難な方は、表情や行動から読み取り、満足度を増やしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネからの情報の他、会話が可能なお方には本人様、意思疎通困難な方はご家族や関係者からの聞き取りを行っている。入居後も本人様との会話やご家族との話などから情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り、個人記録等により、一人ひとりの1日の過ごし方、生活リズム、心身の状況等の把握に努め、全体ミーティングや資料等により全職員が情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から看護師やリーダーを中心に利用者一人ひとりの状態やケア方法について検討し必要時は主治医からの意見を聞き介護計画を作成している。本人様は日頃の関わりの中で、ご家族とは面会時や電話で状態報告や意向を確認している。	介護計画は本人や家族の意向が反映され、主治医からの意見も取り入れられている。内容や期間は、その都度見直しが行われており、作成されたプランは全職員で共有することができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他、バイタル・食事量・排泄等の記録により、日々の暮らしの様子や本人様の言動、利用者の心身状況、状態の変化を把握・確認し、介護計画の評価や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族の状況、希望により入居前の主治医を継続できるように訪問診療の調整をしたり、家族様では困難な受診支援、訪問美容、歯科訪問診療も調整している。また、季節の行事やドライブ等の外出支援などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中心地に施設がたっている為、歩行範囲内に公園、図書館、文化会館、ショッピングセンターなどがあり、気軽に利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回～2回の定期健診及び往診 2か月～3か月毎の検査と充分に対応していると思う。家族が受診付き添いできない時は、後で受診、往診結果報告をしている。	かかりつけ医での受診や往診対応ができ、夜間でも協力医療機関とは、相談したり、指示を受けている。家族での受診をお願いしているが難しい場合は、ホームで対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態変化については、常に記録、スタッフとも直ぐに連絡を取り合い、適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との連絡を取ったり、面会に行ったりして、安心して治療に専念されるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様の意向を最優先し、ドクターを交えて、できる限りの対応を今後も続けていきたい。 入居時には事業者として出来る事を、不十分な事を十分に説明し、納得をして頂いている。	本人、家族の意向を聞きながら、安心と納得が得られるようホームで対応できることを説明している。緊急時のこと等、事前に家族へ説明し、かかりつけ医と連携しながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルにより社内研修を行っている(ミーティング時など)が今後実践に備え訓練していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害、地震、火災の対応マニュアルを繰り返し熟読し、訓練を行っている。地域の方々にも運営推進会議などで地域の情報を公開し、又、協力をお願いしている。	消防団と一緒に避難通路の確認や通報装置の使い方の指導を受け対策を行っている。日中、夜間を想定し、避難訓練を実施しているが地域を含めての訓練はこれからである。	今後、地域の参加も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援やケアを行う際は本人様の気持ちや自尊心を考慮して対応するように努めているが、不適切な言動がある時には管理者から注意を促している。また個人情報の取り扱いや守秘義務についても全職員に注意を促している。	本人の気持ちを大切に、さりげない言葉かけやプライバシーに配慮した支援が行われている。より良いケアができていないか職員間で確認し合ったり、改善に向け話し合いが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態に合わせた声かけや対応に心がけている。一日の過ごし方や食事内容なども利用者の希望を取り入れたり、意思表示が困難な方については表情や言動から推察して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調や心身の状況に合わせて食事や居室での休憩などができるようにしている。外出希望のある方には散歩やドライブ等の対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身でできる方は朝の着替えや整容など自分で行われるが、自己決定が困難な方は職員が本人様の身体状況に合わせた服装を選んで支援をしている。訪問美容ではなるべく本人様の希望に沿ってカットしてもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には調理担当職員が栄養面を考えて1日の献立を決めているが、利用者の希望や好みを聞き献立を考える事もある。身体的にできる方には野菜の下ごしらえや片付けなどを手伝っていただいている。	リクエストメニューや季節に応じた料理、手作りおやつ等の提供があり、楽しんで食事ができるように工夫されている。食事形態も個々に応じて対応することができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスを考え、食事形態も口腔状態、咀嚼・嚥下状態に合わせて粥、刻み食等を提供している。各々の体調、1日の摂取量を把握し、主治医からの指示にも注意しながら食事摂取や水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分でできる方は洗面所で歯みがき等の口腔ケアをしていただく。利用者によっては歯みがきの介助、スポンジ使用など、状態に合わせて口腔ケアを行い、口腔内清潔保持、誤嚥性肺炎の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄意のない方も時間を見て声かけや誘導を行ったり、立ち上がりなど排泄のサインを把握してなるべく排泄の失敗が少なくなるように心がけている。また、排泄チェック表を記入し一人ひとりの排泄パターンを把握するようにしている。	一人ひとりの排泄パターンや習慣に合わせて、声かけやトイレ誘導ができています。排泄が難しい方についても毎日、排泄チェック表や行動観察を行い個別の排泄支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により一人ひとりの排便パターンを把握している。職員には便秘防止の重要性を周知し、毎日の牛乳の他、便秘の方には多めの水分摂取や献立にヨーグルトを入れたり、各種体操等便秘の防止に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っているが、本人様の状態や希望により入浴日を変更し対応することもある。体調変化時の対応を考慮し午前中に入浴としている。	入浴時間の制限はなく、ゆっくりとした入浴でリラックスできている。浴室内は寒暖差に配慮し温度調整が行われ安心して入浴できる。本人の状態に合わせて足浴も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体操や活動への参加を促し生活リズムを整えるように支援をしているが、夜間不眠や本人様の身体状況などによりいつでも居室で休息や午睡ができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイル、申し送り等により職員が内服、外用薬等の内容を把握できるようにしている。服薬時は飲み込みまで確認するように指示をしている。処方の変更や状態変化が見られる時には看護師や主治医との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や本人様の好きな事を聞き取ったり、日々の生活の様子などから本人様ができそうな家事や作業を頼み、役割や楽しみを持って過ごしていただけるように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナウイルス感染防止のため買い物や喫茶等の外出が困難であるが、気分転換に外気浴や公園周囲の散歩、ドライブ等の外出支援を時々行っている。	感染防止のため、現在、外出は十分ではないが、ホーム内のテラス席にて外の景色を見ながら食事をしたり、ドライブ等、できる範囲で個別に応じた外出支援ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を管理できる方はいらっしゃらない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日ハガキや手紙を書く方もいらっしゃる。家族と会えない日々が続いてるので、電話にて会話をされとても喜ばれ、相方共々安心をされる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みの物の持ち込みは可能で制限はしていない。家族も写真や使い慣れた小物等、持参されている毎月のカレンダー作成など季節感を表す工夫をしている。	玄関や廊下には季節感を感じられる作品や入居者の笑顔あふれる写真等が飾られている。室内は明るく、静かであり、掃除が行き届いているため清潔な空間が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときは各自居室に行かれたり、ソファにてテレビを楽しんだり、時にはベランダの椅子で外気浴を楽しんだりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みのものの持ち込みは可能で写真や絵、使い慣れたコップや湯呑を使用。	持ち込みは可能であり、自宅で使い慣れた物の持ち込みがみられている。居室には家族の写真や趣味の作品等が飾られ、過ごしやすい環境で生活を送ることができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のお名前やトイレ、風呂場の表示、手すりなどを設置して動線を工夫している。		